

2019年4月25日

青森県  
エネルギー総合対策局  
原子力立地対策課長  
藤田 裕士 殿

電源開発株式会社  
常務執行役員大間現地本部長  
楠瀬 昌作

青森県原子力安全対策検証委員会報告を受けた  
県の確認・要請に対する対応状況について（報告）

2011年11月21日の青森県知事からの要請に基づく、青森県原子力安全対策検証委員会報告を受けた県の確認・要請に対する対応状況につきまして、別紙の通りご報告致します。

- ・別紙  
青森県原子力安全対策検証委員会報告を受けた県の確認・要請に対する対応状況について（2019年3月末現在）

以上

(別紙)

青森県原子力安全対策検証委員会報告を受けた  
県の確認・要請に対する対応状況について  
(2019年3月末現在)

2019年4月

電源開発株式会社

## 目 次

1. はじめに	1
2. 検証委員会報告書の提言に対する対応状況について	1
① 安全対策（設計変更又は追加された対策）の着実な実施、 ⑥ より優れた安全技術の積極的導入	1
② 地震・津波への対応強化	2
③ 防災への取組	2
④ 訓練の充実・強化	2
⑤ 県内事業者間による連携強化	3
3. 添付資料	
添付資料－1 大間原子力発電所の安全強化対策の概要について	
添付資料－2 「青森県内原子力事業者間安全推進協力協定」における活動 内容（2018年4月～2019年3月）	

## 1. はじめに

青森県原子力安全対策検証委員会（以下「検証委員会」という。）より、「建設中である大間原子力発電所の安全強化対策等については、安全対策として考え得る計画がなされているものとする」との検証結果とともに、「今後の施設の安全性を継続的に確保するために取り組むべきもの」として、2. に示す6つの提言が示されました。

当社は、青森県知事より、検証委員会からの提言を踏まえた当社の対応についての確認・要請を受け、「青森県原子力安全対策検証委員会報告を受けた県の確認・要請に対する対応状況について（平成30年3月末現在）」を2018年4月27日に報告しておりますが、この報告以降から2019年3月末まで（以下、「本期間」という。）の対応状況について、以下のとおり報告いたします。

ご要請に対しましては、今後も適切な時期に的確に対応してまいりますとともに、引き続き、安全な発電所づくりに努めてまいります所存であります。

## 2. 検証委員会報告書の提言に対する対応状況について

### ①安全対策（設計変更又は追加された対策）の着実な実施、⑥より優れた安全技術の積極的導入

検証委員会に具体的に示した安全対策について着実に実施することに加え、深層防護の観点から、有効と思われる新たな技術についても取り入れていくこととしており、2014年12月16日に原子炉設置変更許可申請書及び工事計画認可申請書を提出し、新規制基準への適合性審査を受けております。

設計基準事故対策については、地震・津波への対応を強化しております。重大事故等対策については、炉心損傷の防止及び格納容器の破損防止対策を行います。さらに、大型航空機衝突やテロリズムにより外部への放射性物質の異常な放出を抑制するため特定重大事故等対処施設を設置いたします（添付資料-1参照）。

適合性審査において原子力規制委員会より申請内容に係る主要な論点として、大間原子力発電所は建設中プラントであり、取り得る対策の選択肢が広いと考えられると提示されております。この論点に対して原子力規制委員会へ適切に説明を行うとともに、より優れた安全技術の積極的な導入を検討し、必要な対策については適切に反映することで、安全な発電所づくりにつなげていきます。

## ②地震・津波への対応強化

本期間においては、敷地周辺及び敷地の地質・地質構造、基準津波並びに地下構造について適合性審査を受けています。

敷地周辺及び敷地の地質・地質構造に関しては、下北半島西部の地殻変動の評価及び追加調査結果を踏まえた敷地内の断層・シーム等の調査・評価について継続審議中です。11月に原子力規制委員会による現地調査が実施され、敷地周辺は背斜構造に関する露頭や海岸地形を、敷地内は断層・シーム等に関するトレンチ等の確認が行われました。今後は、審査会合や現地調査のコメント回答について審議される予定です。基準津波の策定に関して、非地震性津波については概ね妥当との見解が示されており、地震性津波については、波源モデルの妥当性について継続審議中です。地下構造に関しては、初回の審査会合が開催され、今後、地下構造モデルの根拠データや解析結果について審査される予定です。

今後も引き続き、耐震・耐津波安全性に関し、情報収集するとともに、必要に応じて最新の技術・手法を用いた調査等によるデータの充実を図り、信頼性の一層の向上に努めてまいります。

## ③防災への取組

本期間においては、防災関係法令の改正を踏まえた上で、「青森県内原子力事業者間安全推進協力協定」における活動での、各事業者の安全対策等に関する情報共有や、東北電力株式会社、日本原燃株式会社及びリサイクル燃料貯蔵株式会社における原子力事業者防災業務計画の見直し・作成に関する情報共有等を行い、大間原子力発電所の原子力事業者防災業務計画の検討を進めております。

今後も引き続き、より実効的な原子力事業者防災業務計画とすべく、「青森県内原子力事業者間安全推進協力協定」における活動内容も反映のうえ、検討を進めてまいります。なお、原子力事業者防災業務計画については、県及び関係市町村と調整のうえ、燃料搬入までに作成いたします。

## ④訓練の充実・強化

本期間においては、「青森県内原子力事業者間安全推進協力協定」における活動での、東北電力株式会社及び日本原燃株式会社の防災訓練（要素訓練）の調査や実施結果・改善事項の情報交換等を踏まえ、以下のような訓練及び必要となる資格取得を実施し、訓練の充実化及び災害対応能力の強化を図っております。

- ・ 運転・操作訓練：自社シミュレータを用いた各種異常時対応訓練

- ・ 放射線管理に係る訓練：モニタリングカー等による空間放射線量率の測定及び可搬型の放射線管理設備の設置操作を行う訓練
- ・ 可搬型設備取扱訓練：建設機械、小型クレーン、フォークリフト、トラック等の操作・取扱訓練、バックホウや人力での段差解消訓練、人力での給水ホース取扱訓練
- ・ 緊急時対策本部訓練：緊急時対策本部における災害対策に係る情報共有、状況判断及び指揮を行う訓練

また2018年度に新たに始めた訓練は以下の通りです。

- ・ 可搬型設備取扱訓練：放射性物質吸着剤設置訓練、海上への放射性物質拡散抑制装置の設置訓練

今後も引き続き、訓練を実施し、設備の建設状況に応じ、必要な体制を整備するとともに、手順等を整備いたします。

また、確実に有事の際に対策が実施できるように、多様な訓練やPDCAサイクルの実施に向けた検討を進めてまいります。

#### ⑤県内事業者間による連携強化

本期間において、東北電力株式会社、東京電力ホールディングス株式会社、日本原燃株式会社、リサイクル燃料貯蔵株式会社及び当社は、2011年12月9日に締結した「青森県内原子力事業者間安全推進協力協定」に基づく「原子力安全推進協議会」及び「原子力安全推進作業会」を以下のとおり開催し、青森県内における原子力災害への対応能力向上のための活動等に係る相互協力を行っております。

- ・ 原子力安全推進協議会：2018年11月12日、2019年3月18日
- ・ 原子力安全推進作業会：2018年6月19日、9月12日、12月7日  
2019年2月27日

上記会議に基づく具体的な活動は、以下のとおりです。(添付資料-2参照)

<平常時における安全管理等に係る協力活動>

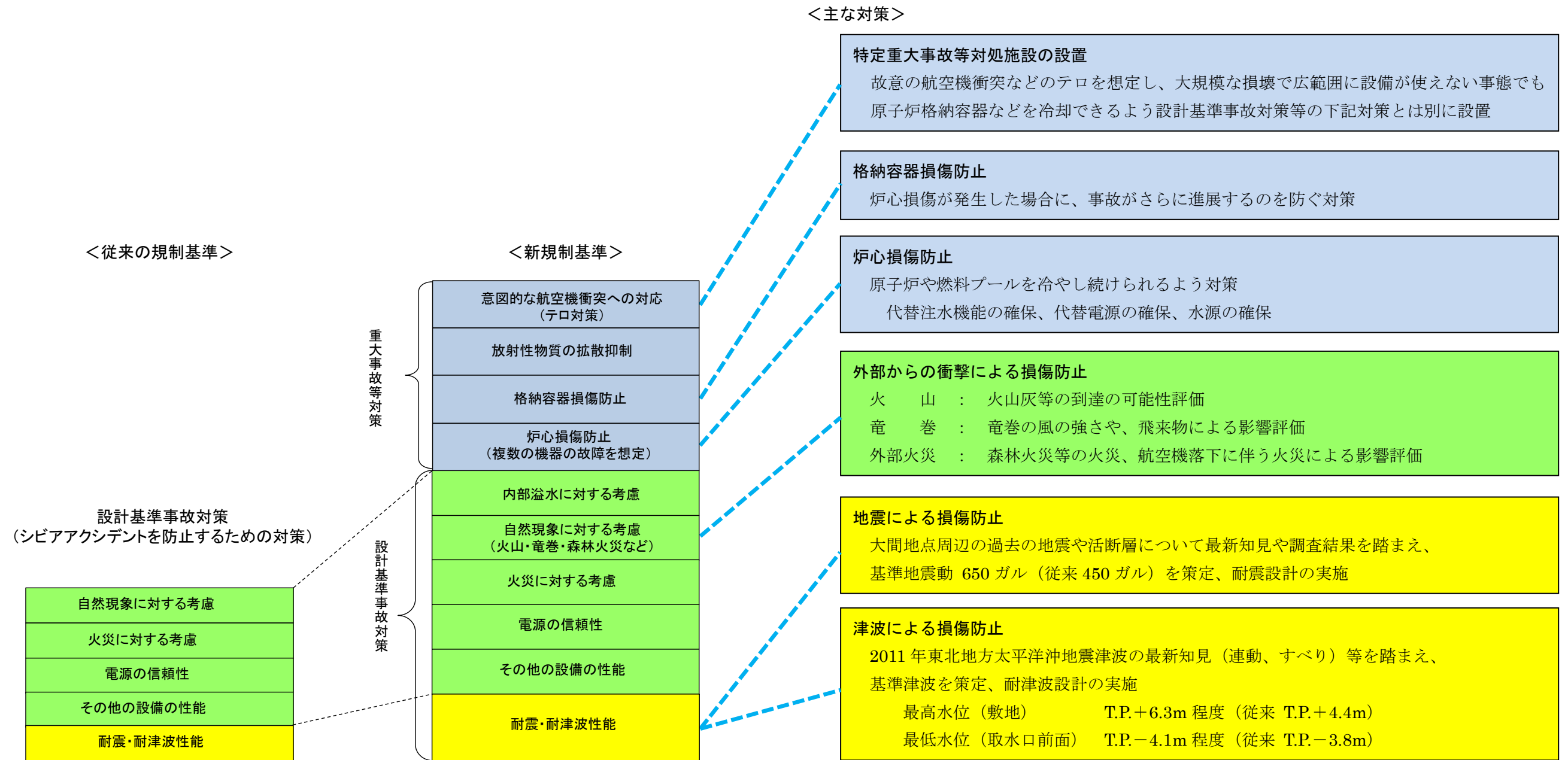
- ・ 各事業所における安全性向上・安全文化醸成に関する講演会等への相互参加
- ・ 原子力事業者防災業務計画の見直し等に関する情報共有
- ・ 新規制基準等の対応状況に関する情報共有

<訓練等による原子力災害への対応能力向上のための協力活動>

- ・ 各社が日常的に行っている防災訓練（要素訓練）の相互見学を実施
- ・ 東北電力株式会社及び日本原燃株式会社にて実施した原子力防災訓練に関する情報共有

今後も引き続き、「青森県内原子力事業者間安全推進協力協定」に基づく活動を通して、更なる安全性や技術力の向上と原子力災害への対応能力向上に向けて取り組んでまいります。

大間原子力発電所の安全強化対策の概要について

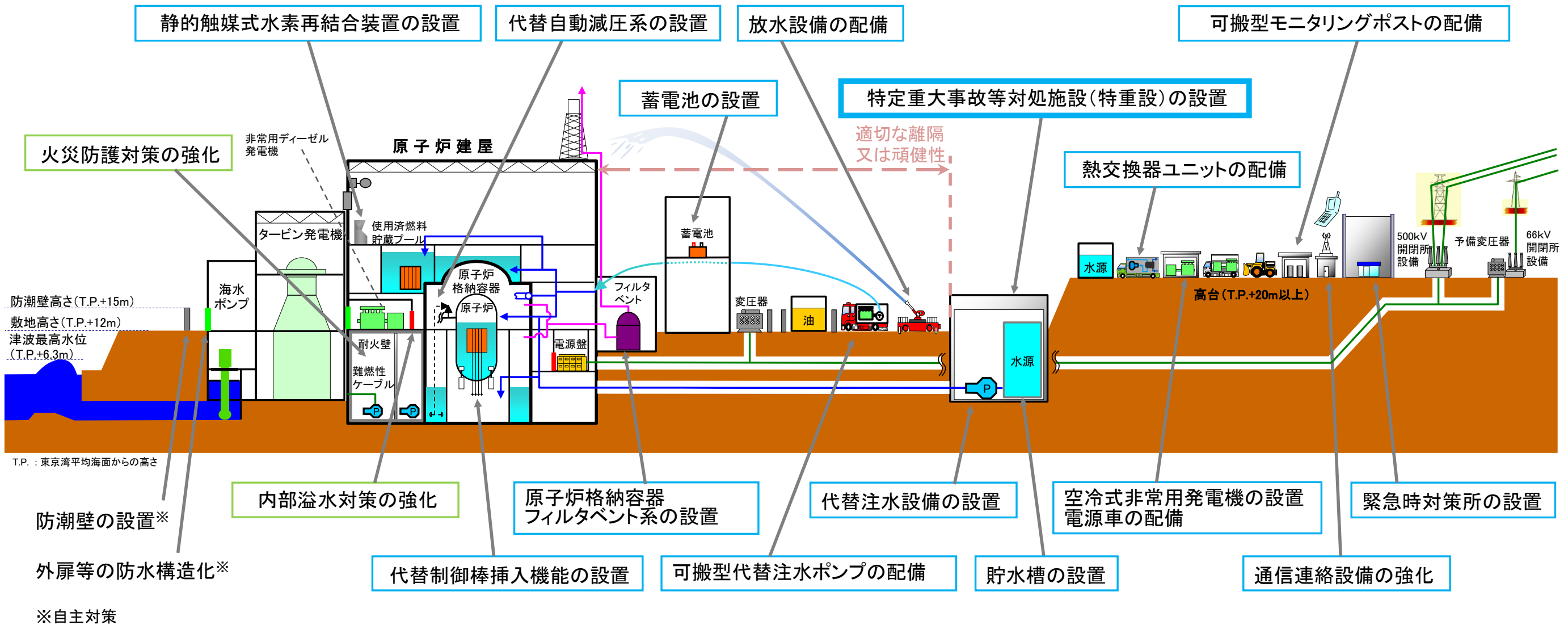




設計基準事故対策

重大事故等対策

自然現象(火山、竜巻、外部火災等)の考慮



大間原子力発電所の安全強化対策の概要

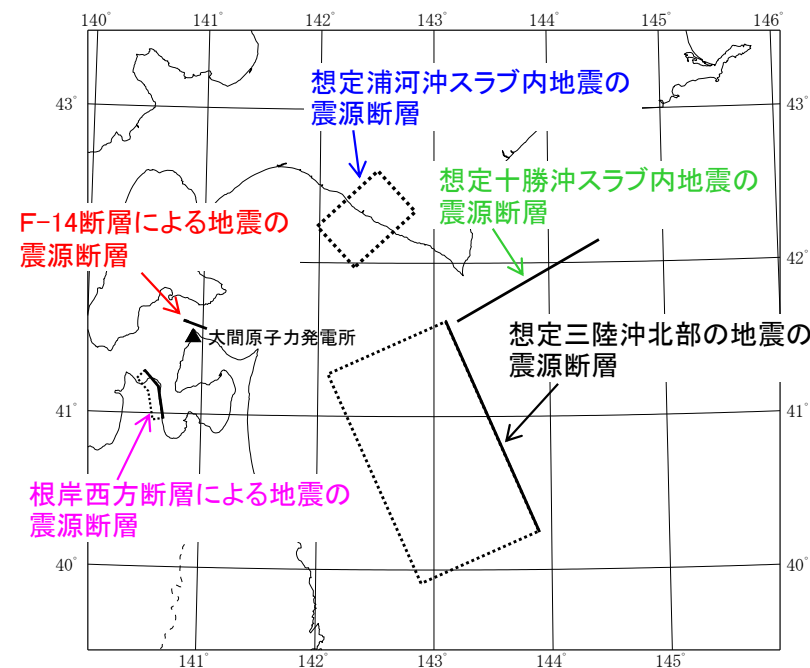
1. 地震について

- 検討用地震  
地震発生様式ごとに検討用地震を下記のとおり選定

地震発生様式	検討用地震	マグニチュード
プレート間地震	想定三陸沖北部の地震※1	Mw8.3
海洋プレート内地震	想定浦河沖スラブ内地震	M7.5
	想定十勝沖スラブ内地震	M8.2
内陸地殻内地震	根岸西方断層による地震※2	M7.5
	F-14断層による地震	M6.7

※1:平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震を踏まえ、三陸沖北部の領域と千島海溝沿いの十勝沖及び根室沖の領域の連動(Mw9.0)について、不確かさの考慮として評価を実施

※2:新たな調査結果に基づく断層評価の見直しにより、検討用地震として新たに考慮



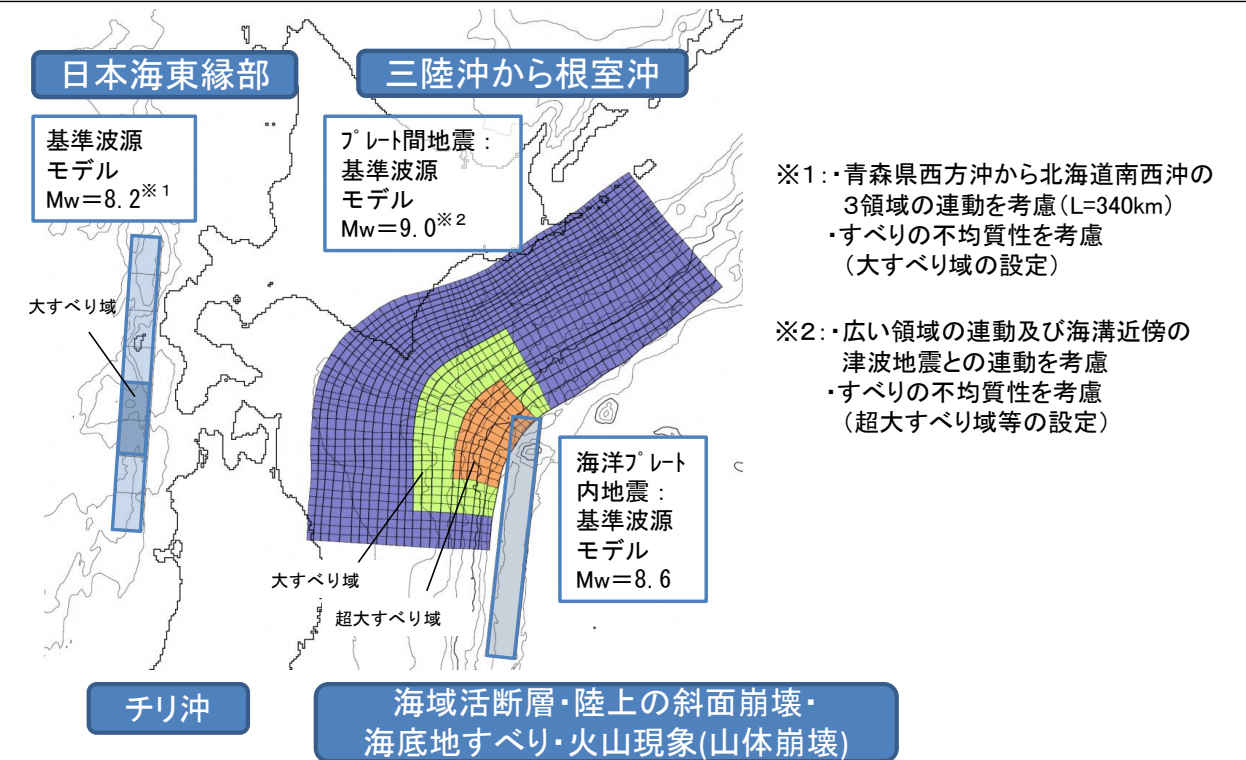
検討用地震の震源断層位置

- 大間地点周辺の過去の地震や活断層について最新知見や調査結果を踏まえ、基準地震動を設定

⇒ 基準地震動 (最大加速度) 水平動 650 ガル  
鉛直動 435 ガル

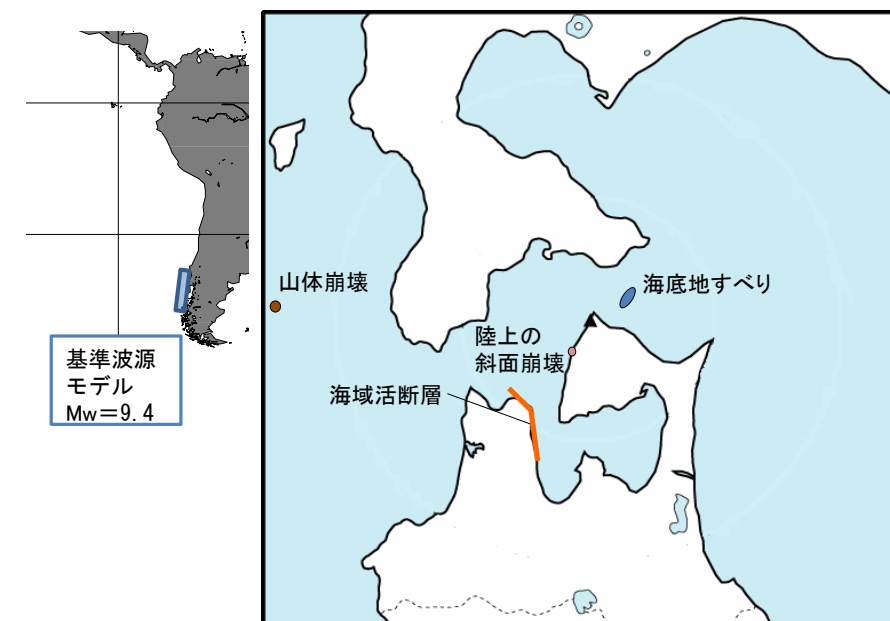
2. 津波について

- 2011年東北地方太平洋沖地震津波等の最新の知見を踏まえ、波源モデルを設定
- 日本海東縁部、三陸沖から根室沖、チリ沖及び海域活断層の波源として、既往の検討規模以上の地震を想定
- 非地震(陸上の斜面崩壊・海底地すべり・火山現象に伴う山体崩壊)に起因する津波も考慮



※1:青森県西方沖から北海道南西沖の3領域の連動を考慮(L=340km)  
・すべりの不均質性を考慮(大すべり域の設定)

※2:広い領域の連動及び海溝近傍の津波地震との連動を考慮  
・すべりの不均質性を考慮(超大すべり域等の設定)



- 敷地高さはT.P.+12mであり、基準津波による敷地の最高水位(T.P.+6.3m)よりも高いため、基準津波が地上部から到達、流入するおそれはない
- 基準津波を超える津波に対しても、更なる信頼性向上の観点から対策を実施
- 海水ポンプは堅固且つ水密性の高いタービン建屋内に設置
- 基準津波による水位低下時(T.P.-4.1m)に、取水口前面の敷高を若干下回るが、取水路等に貯留された海水(約6,600m<sup>3</sup>)により、必要な原子炉補機冷却海水系の取水量を十分に確保

「青森県内原子力事業者間安全推進協力協定」における活動内容  
(2018年4月～2019年3月)

活動項目	活動内容	備考
1. 平常時における安全管理等に係る協力活動	日本原燃株式会社による講演会への参加 ・「マネジメント・オブザバージョン(MO)導入研修」 (11/5)	次年度以降も継続
	原子力事業者防災業務計画の見直し等に関する情報共有	
	新規規制基準等の対応状況（適合性審査に係る対応状況、安全性向上対策の実施状況等）に関する情報共有	
2. 訓練等による原子力災害への対応能力向上のための協力活動	東北電力株式会社で行われた防災訓練へ参加 ・ 事業者間協力協定対応訓練（9/28） ・ 災害対策支援拠点訓練（9/28） 日本原燃株式会社で行われた防災訓練を見学 ・ 濃縮事業所 防災訓練（10/26） ・ 再処理事業所 防災訓練（1/29）	次年度以降も継続
	東北電力株式会社及び日本原燃株式会社にて実施した原子力防災訓練に関する情報共有	
3. 取り纏め	2019年度の活動計画を作成	本計画に基づき2019年度の活動を実施